



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
田中 愛智朗

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、引き続きわが国を含め世界中が大きな影響を受けた一年でした。沖縄経済は、渡航の自粛等により、観光産業をはじめ厳しい状況が続き、軽石の漂着被害や資源価格の高騰など、新たなリスクも顕在化しております。コロナ禍にあっても、日々努力を続けておられる事業者はじめ関係の皆様に深く敬意を表しますとともに、本年も沖縄総合事務局一丸となって皆様と沖縄振興のために力を尽くしてまいります。

沖縄は本年、本土復帰50年の節目を迎えます。振り返れば、昭和47年5月15日、沖縄が長い米国統治から祖国に復帰したことは、歴史的な大事業であったと同時に県民の皆様にとりましても世替わりとよぶにふさわしい大変革であったと思います。この間、ドル経済から円経済への移行('72)、沖縄国際海洋博覧会開催('75)、道路交通方法変更('78)、海邦国体開催('87)、首里城公園開園('92)、九州・沖縄サミット首脳会合開催('00)、沖縄美ら海水族館開館('02)、那覇空港第二滑走路供用開始('20)など幾多の出来事がありました。常に新しい課題に遭遇しながらも、沖縄の振興は県民をはじめ、国、県、市町村の努力と相まって着実にその成果をあげてきました。

本年は沖縄総合事務局が設立されてから50年目となる節目の年でもあります。コロナ禍で疲弊した沖縄経済の早期復興、軽石の漂着被害、焼失した首里城の復元など喫緊の課題も含めて、この50年の成果を土台として、引き続き沖縄の発展のためになお一層の取組を続けてまいります。県民の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多き良い一年となりますよう心から祈念し、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

